

丁寧なアプローチと訪問前の準備により 健康相談・面接指導の内容を充実

酒田地域産業保健センター

シリーズ第6回は、山形県北部に位置する酒田市と庄内町、遊佐町を担当する酒田地域産業保健センター（以下、酒田地産保）の活動を紹介します。

運営主幹の菅原保先生、コーディネーターの浅井俊夫さん、保健師の中野あゆみさんと菅原時子さんに、コーディネーターと登録産業医、保健師が一体となった取組みで健康相談・面接指導の利用数を大きく伸ばしている活動を中心にお話をうかがった。

1. 事前調査で利用を呼びかける

酒田地産保の「健康相談・面接指導」の実績件数は、平成20年度の55件に対し、26年度は174件と大きく伸びている。浅井コーディネーターが事業場に足を運んで地産保の利用を呼びかけ、毎年度末には登録事業場に相談等の利用調査を行い、利用を希望する事業場から相談内容や希望時期などを集計、そして登録産業医と保健師の協力を得て事業場を訪問し、健康相談・面接指導を毎年重ねてきた成果である。

酒田地産保の管内では、全体の約98%が50人未満の事業場であり、「金属加工や製紙業などさまざまな分野の小規模の製造業が多く、工夫を凝らしながら頑張っています」とコーディネーターの浅井さん。

そうした事業場の従業員に対する健康相談や面接指導は、以前は曜日と時間帯を決めて窓口で産業医が待機するかたちで実施していた。だが、この方法では相談者の来ない日もあり、浅井コーディネーターは、「せっかく先生が時間をつくっているのにもった

いない」と判断。計画的に打って出る方法を考えて10年前、利用調査を行う取組みを開始した。

この取組みの具体的な流れは次の通りである。

① 利用調査

毎年2月、登録事業場に3点セット（酒田地産保の案内、登録申込書、「健康相談・面接指導」利用申込書）を送付。産業医、保健師が健康相談等に無料で応じるサービスを実施している旨を伝え、利用を希望する事業場には、場所（事業場または地産保）、時期、相談内容を書き込んで返信してもらう。

② 訪問前の準備

利用を希望すると回答した事業場の希望時期と産業医、保健師のスケジュールを踏まえ、浅井コーディネーターが訪問日時を調整。年間の訪問予定表を作成して、産業医、保健師に連絡する。一方、訪問先となる事業場には事前に従業員の健康診断結果を送ってもらい、保健師がその結果をみて、産業医によるアドバイス等が必要と思われる従業員について事前に事業場へ連絡。この準備により、訪問先で時間を無駄にすることなく、産業医と保健師がより充実した相談・指導を行えるようになった。

「訪問件数が増えたことから、事前にできることを行うこの方法にしました」（中野保健師）。

③ 事業場を訪問

訪問は、産業医と保健師、浅井コーディネーターの3人で行く。保健師が事前に把握した対象者の健康相談や保健指導を行うほか、健診結果以外の従業

員の健康等について事業場の担当者が気になっていることがあれば聞いて対応している。

④ 健康診断結果について

産業医が指導を行った従業員にはその結果を文書でも伝える。『治療または精密検査が必要』であった場合、その後の受診状況を事業主が把握するために指導結果を伝える用紙(A4サイズ)の下半分は『受診結果』として、本人が記入して事業場に提出する内容とした(図1)。これにより、事業場が事後措置を把握し、文書で保存することができる。

「従業員の方への就業上の対応が必要であれば、事業場できちんと行っていただくことにつながるものとして作成しました」(浅井コーディネーター)。

2. 事業場の元気を支えたい

これら取組みを始めてから、相談・指導を行った事業場からは翌年も利用が希望されるようになり、健康に対する意識が高まったり、健診結果がよくなるなど、年々着実によい方向へと変わっていく事業場が出てきた。また、健康相談を通してがんを疑って早期に把握できた事例もあり、地産保として「その事業場に関わることができてよかった」と感じるケースも少なくないという。

取組みの開始当初、いきなり利用調査の文書を事業場に送付するのではなく、浅井コーディネーターはできるだけ事業場を回って地産保の説明に努めた。また、新規登録事業場の拡大や確認のため、労働基準監督署との連携を密にしたり、酒田市の広報に地産保の取組みを掲載してもらったりしている。

「浅井さんの努力を見えていますから、皆が協力しています。医師会も実質的に活動している登録産業医が26人と多いほうですし、産業保健の取組みに熱心です」と菅原先生。手厚い健康確保対策に継続的に関わることで、事業場のレベルが着実にアップしていると感じられるという。また、この取組みのかたちは県内のコーディネーターの研修会でも伝えられ、積極的な交流が進んでいる。山形産業保健総合支援センターの相談員でもある菅原先生は、「よい結果の

図1.「健康診断結果について」の様式

下半分は本人が記入し、事業場に提出する

出ている事例をコーディネーター間で共有し、さらに地方から発信し、全国的な活動につながるよう推進していきたいと思っています」と意欲的である。

菅原保健師は「従業員の皆さんの健康確保対策に事業場が主体的に取り組めるよう、まだ情報の届いていないと思われるところに声をかけています。利用された事業場には、他の事業場に呼びかけてくださいと口コミをお願いしています」と一層の利用拡大を目指す話し、中野保健師も「利用を増やしながら事業場が自立していけるよう支援をしていきたい。この取組みを始めてから顔見知りの労働者の方が増えて、「中小企業の保健師」として活動できるようになってきました。今後も親しんでいただける保健師を目指したい」と話した。

浅井コーディネーターは「産業医、保健師ともよい方々に恵まれてありがたい限りです。私は地元の中小事業場で働いている方々に元気であってほしい、そして、事業場そのものも元気であってほしい、その思いがこの取組みの原動力になりました。今後も、下からコツコツと支えていきたいと思っています」と謙虚な姿勢で取組みを続けている。